

いまの歴史

新聞をななめ読み、
週刊誌を読み飛ばし、
倍速モードでニュースを見れば、
よくわかる、すぐわかる、最近の歴史。

【歴史】

ゴシップの王国が計画する 21世紀へのカウントダウン

一昔前まで人類の21世紀へのカウントダウンは、ノストラダムスの予言にある一九九九年の地球最後の日を筆頭に、カルトチックな未来がクローズアップされることが多かった。

しかし、実際にカウントダウンに入っただこの数年前から、こういった類魔的傾向の鬱積を晴らすべく、世界各国で派手に二〇〇〇年を祝う計画がはじめられている。中でも積極的なのは、お祭り好きのアメリカではなく、ジェントルマンの国で知られるイギリス。「何か変わった独創的なプロジェクトを」をコンセプトに二〇〇〇年に一度の一大行事を行う「二〇〇〇年委員会」なるものを発足させ、英国民から広くアイデアを募っているというのだ。

現在まで応募されたアイデアには、年間税金をただにするとか、コンピュータを使ってエリザベス女王のパーチャルコインを造るなどが上がっている。中でも人気が一番集まっているのは、テムズ川沿いに世界一の観覧車を造るという案。どうやらイギリス人は、皇室の暴露本が続発するお国柄を見ても高みの見物がお好きなのようだ。

あ、これそういえば見たことあるよ、会社の喫煙コーナーで。

【未確認】

トップシークレットを形にした 模型が端緒の「宇宙船隠蔽説」

日本のUFO研究の第一人者といえは、元日本テレビディレクターの矢追純一氏。彼は自分でディレクションしたテレビ番組の中で、アメリカのネバダ州にある軍事施設では既に宇宙人と接触がなされており、宇宙船も数機隠されているとリアルに報じていた。だがUFOを信じない者は、きつとこの話を虚言と感

じ「本当ならUFOの実物を見せろ」と思ったことだろう。しかし、この話はアメリカでは信憑性の高い噂として伝播しているのだ。その理由は、テスター社から売り出された宇宙船の模型。この模型は、アメリカ当局の依頼で宇宙船の分解調査をしたという物理学者ポプ・ラサー氏が監修して制作されたといわれる、いわくつきのもの。

もちろん、これだけでUFOの存在を事実として捕らえることは難しいが、80年代にこの会社が売り出した新型戦闘機の模型が、当時トップシークレットだった「ステルス」戦闘機と全くそっくりだったという実績もある。つまり、今度も政府の最高機密を形にしたのでは？ というところらしいのだ。果たして真実はいかに…



【科学】

無資源国日本を石油王国にする 石油生成可能な微生物発見？

日本で「石油」のイメージといえば、海外からの輸入に頼る有限資源というものが強い。だから原子力力がこれからの主なエネルギー源としてクローズアップされているのだが、様々な問題を引き起こしているのはご存知の通り。

日本に資源として石油さえあれば、安全性にまだまだ不安のある原子力などに頼らなくてもいいのに…と誰もが考えるが、そんな都合の良い話などないというのが現代の一般常識だ。

しかし、この常識を覆す研究が大阪大学工学部で密かに続けられている。石油の生成はこれまで太古の生物の化石化の結果だと考えられていたのだが、最近同大学の今中教授らの研究グループが、生きた生物によっても生成される可能性があることを示唆したのだ。この発言は、無酸素状態で石油の生成をしてみようという素朴な細菌の発見が発端。生産効率や生成される石油の純度など、実用化にはまだかなりの問題があるものの、今後遺伝子操作により石油の生成能力を向上させる可能性があるらしいのだ。もう中東は怖くない、島国日本が将来は石油王国となる？

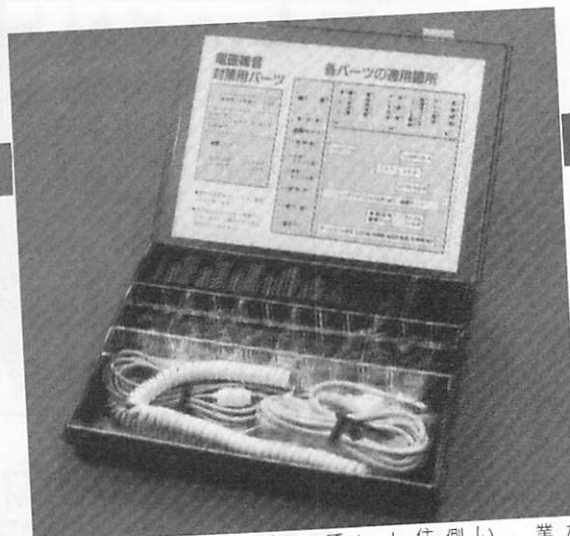
今年もがんばります。

絶賛発売中!

94 NHK紅白歌合戦で熱唱
「女...ひとり旅」

としみ

コロムビアレコード

これがつまりお謎いの道具です。

【現象】

幽霊の正体見たり怪電波 チャイム鳴りだし夜も寝られず

夜中に突然、玄関のチャイムが鳴り、寝ほけ眼で玄関に出て見ると誰もいない。もしも、こんな現象に遭遇したら、あなたはきつと幽霊が出たと思うはず。しかし、実際に起こった不気味な現象が、数年前から日本各地で頻りに起こっているというのだ。エセ折ら日本各地でも考えずに「これは、土地の不成仏霊の仕掛師なら何も考えずに「これは、土地の不成仏霊の仕掛師なら何も考えずに」などとたわごとを言うたろう。業。供養すればいい」などの現象、幽霊の仕

だが、実はこの現象、幽霊の仕業ではない。NTTが調べて見ると、こういった現象のある家は交差点の側や交通量の多い道路の近くの住宅ばかり。しかも、ドアホンと家庭内の電話機が接続されている家庭に限って起きていたのである。つまり、ドアホンから電話機までの配線がアンテナとなり、信号や無線などの不法電波をキャッチして、電話機内のチャイムが誤作動して鳴るといふ電波障害が原因だったのだ。もしも、この不気味な現象でお悩みの方は、NTTに相談すれば数百円程度の誤作動を防ぐ部品を取りつけて解消してくれるが、それでも鳴る場合は、本物の幽霊の仕業かも。ピンポイント。

【スポーツ】

「金のためならなんでもするぜ」 で吹き飛んだスポーツの正々堂々

ドーピングという言葉が一般に浸透したのは、たぶんロス・オリンピックの陸上男子100mで王者カール・ルイスの使用が発覚、金メダルを剥奪されたベン・ジョンソンからだろう。この事件後「正々堂々」を万国共通の建前とするスポーツ競技でも、国際間の争いとなれば、国民の意識昂揚のために「勝つためなら、ドーピングも辞さず」という本音が露にされた。

だが昨年末の組織的といわれる中国のドーピング事件は、単に国民の意識昂揚のためではないようだ。ご存知のように中国では国際大会のメダリストになれば英雄となり、その後の生活は保証される。だが、その英雄になるには、省、市、軍表選手とならなければ国際大会には出場できないのだ。つまり、問題の王軍団のコーチが「我々の敵は今や外国ではない。国内にある他のチームだ」といったように、実は「金持ちになれるなら何でもあり」思想の資本主義化が進む、現代の中国世相が引き起こした悲劇なのだ。



【テクノロジ】

「テクノロジー」 一番のお得意は寂しいお年寄り 米開発の健康増進パソコンネット

いま一部のアメリカの老人たちに、密かな人気を集めているモノをご存知だろうか。もちろん、日本の老人たちに人気の定番である、ゲートボールや温泉旅行ではない。それは、一見老人に敬遠されがちなパソコンである。米ウイスコンシン大学の医療研究プロジェクトが誕生させた、CHES (総合健康増進システム) と呼ばれるパソコン通信ネットワークは、24時間医療情報を流すデータベースで、しかも同じ病気の患者とも会話ができるシステム。つまり、相手がコンピュータなので恥ずかしくて医者にきけないことも気後れせずに聞くことができ、同じ病気に悩む人と友人になれる、このネットワークがアメリカの老人たちに注目されているのだ。このCHESを使っている老人たちは「今までに飲んだどんな薬よりもよく効くし、第一コンピュータはいいぞ、私もはいてくれるので、孤独感にさいなまれることがないのがいい」と口を揃えて喜びを語っている。



病は気から、健康は機から。

パソコンは今や老人でもマウスによる簡単操作で使える時代。もう若者だけが使える難しいツールではない。

国産品からインポート品まで豊富な品揃え

大きな体格の方もOK!!

オーダー紳士服

29,000円

(シングルスーツお仕立上がり)

丸一毛織株式会社

TEL.075-211-6780

京都市中京区麩屋町通三条上ル

営業時間/AM9:30~PM6:00(第2・3土日祝定休)